

NPO K's Point

第7回 運営会議（総会）

開催日：2018年5月13日（日） 午後12時30分～12時50分

議長：森本 武（NPO K's Point 代表）

司会・書記：伊藤 あゆみ（NPO K's Point 事務局長）

『NPO K's Point mission（目的）』（p.1）

【報告事項】

1. 活動報告

・2016年度後期／2017年度前期（pp.2-4）

2. 収支報告

・2016年度収支報告（p.5）

3. 2018年度活動計画（p.6）

・事業別年間計画

NPO K's Point
mission

目的

J. クリシュナムルティの思想研究をとおして、思考に依存しない生き方の可能性をさぐり、人間のいだけ不安の軽減、解消の実現をはかる。

より具体的には、「今」という絶対的現在を曇りなく生きる知性の存在を検証し、その成果を種々の活動、媒体をとおして広報する。

- 1. 本会は、一定の目的をもった慈善事業を営む資源を確保するため、営利事業にも節度をもって取り組む。**
- 2. 目的の実現と手段は直結しているので、手段としての営利事業の取り組みにおいても、常に目的の内包する意義を逸脱しないよう細心の注意を払う。**
- 3. 組織的成熟にむけて短中期的に構想するが、長期の見通しはもたない。**

1. 活動報告 2016 年度後期 / 2017 年度前期

■ 2016 年度 後期 (2016.12.1-2017.5.31)

2016 年 12 月 10 日 Tea Party 「人間イエスがほんとうに言いたかったこと」

(嵯峨美術大学 / 京都市右京区)

今回は、イエスが遺したことを取りあげることになりました。以下に載せた剣の一節。今のあなたなら、どう理解するでしょうか。

「あなたの剣をもとの所におさめなさい。剣をとる者はみな、剣で滅びる。」

Put your sword back into its place; for all who take the sword will perish by the sword. (マタイによる福音書 26 章 52 節)

2017 年 1 月 21 日 Kの生活塾 第 31 回 「後悔の正体」 (嵯峨美術大学)

ひととのふれ合い、などという表現をだれもが軽々しくつかうのだが、肌のふれ合いよりも、言葉をおとしてのふれ合いが主流となる現実がある。その日々の現実において、言葉を、音声のやりとりで終わらせず、ふれ合うという実感にまで持ち上げて、話し、聞くだけの誠意を、あるいは忍耐を、あなたはもちあわせているだろうか。

2 月 10 日 講演会 「場 the point で出会う意識～芸術編」

(iTohen Books Gallery Coffee / 大阪市北区)

つくるひとの意識が、美の生成であったり、驚きの創造であったり、「内から出す」という運動に傾いている一方、観るひとの意識は、物質的感触から品評したり、自己との異質性の確認という「外からの受け入れ」作業の方向に活動している。その「場 point」にただよう意識を、種々の視点から徹底的にみつめてみましょう。

2 月 12 日 講演会 「祈りは、効く。in マニホージュ」 (マニホージュ / 神奈川・秦野市)

祈りは、気休め的手段ではなく、ヒト・コト・モノを動かす確かな力です。祈りは、また、自己を立て直す最強、最善の営みでもあります。祈りをたんに神秘化するのではなく、その作用を日常の感覚でも理解できる原理・法則などによって徹底解明し、実用的な手段としての祈りの活用も分かりやすく示したいとおもいます。

3 月 19 日 探求の会 「生の中の行動」 (池田文庫 広間・池田市)

社会の中に実現している高度な交通手段や通信手段が現代の人間の行動に大きく影響を与えている。個の内的問題としてよくとりざたされるのは、感情や想いとらわれて身体を動かすことに消極的になる態度からくる閉塞状況である。生は、人間の生は、基本的に行動を尊ぶものとしてあるのか。行動の理解をおとして、生の真相をさぐりたい。

3 月 29 日 K's Point DIGITAL News Letter 「insight 07」 発行

4 月 16 日 講演会 「祈りの効用と実用的方法を解明する」 (Sewing Gallery | 枚方・星が丘)

5 月 14 日 Kの生活塾 第 32 回 「小さな不幸と大きな不幸」 (嵯峨美術大学)

生きる目的のひとつに、いや全てになっていると言ってもいいのですが、幸福の実現があります。その意味で不幸ほど人間を落胆させるものはありません。日々、不快な出来事に遭遇しつつも、気持ちのいい体験も味わえるのが、ふつうの市民の生活というものです。不幸の実体を知り、その虚構性を見出したなら、それは存在根拠を失い消滅するにちがいません。不幸のない生活は、その意味で人生の真相に目覚めた生活といえるはずでは

■ 2017 年度前期 (2017.6.1-12.16)

6月1日 K's Point 文庫『祈り—原理と作法』発行

6月10日 講演会「シャンカラ&クリシュナムルティに学ぶ「人間」という幻影」

(古心庵 / 京都市右京区太秦)

目を細めて見上げるまばゆい夏の太陽。朝の食卓に置かれた肉厚のマグカップ。その傍で輝く銀色のスプーン。これらの確かにみえる存在も、これらを見つめる〈私〉という人間も、幻影でしかない、と哲人シャンカラはいう。実像と虚像。この二元性を産み出す幻影の法則を解明しなければ、〈私〉は迷いの中から抜け出られないのか。われわれ自身も、われわれの生きる世界も実体をもたないのなら、〈私〉はどこに生きているのか。

6月24日 Kの生活塾 第33回「「ありのまま」でいい？」(嵯峨美術大学)

どこまで余分や飾りを剥ぎ取ってやれば、素の姿が現れ出てくるのだろうか。無知の弁解は、「ありのまま」ではない。

7月30日 K語・観察会「第12回【憎悪】Hate」

(デザイン・クリエイティブセンター神戸 KIITO・神戸市)

孤立から憎悪が生まれる。そこで、憎悪は、愛と接点を持たない、とKはいう。ヘイトスピーチに愛がないことは分かりやすいが、もっと潜在した、不可視の意識に働く憎悪にわれわれはちゃんと気づいているだろうか。

8月19日 トーク+対話「死がやってくるまで「今」だけを生きる」(古心庵)

一対話のための問題提起—

だけれども、自分をめぐる環境をひきずりながら、明日への不安から、その準備に追われている。将来の安心に向けて、過去の経験と知識で描く未来像などまったく信用できない。「今」を、過去から断ち切る。そのとき、「今」は絶対現在形の時制に書き換えられる。これこそ、不安の根絶法じゃないのか。

8月27日 Tea Party「K's Point 文庫「祈り 原理と作法」出版記念」(嵯峨美術大学)

1. 本のなかで、あなたの気になったところを教えてください。

2. ミッションと祈りの関係を考えてみる。

2016年度の会員特典にもなった『祈り 原理と作法』を読んで感じた気づきや疑問、確かめたいことなどを聞かせてくれませんか。また、本書のさいごに書いた、人生のミッションと祈りについても、みなさんとお話したいとおもいます。

9月16日 講演会「光への探求 with K's Point #1 私の光に沈む」(EDANE / 大阪市住之江区)

自分の内に、だれもが無限大の意識の海をもっており、その海は光でできています。その海に深く深く潜っていくと、あなたの頭の知らなかった「真の自己」に出会えるはずですよ。

9月30日 講演会「「芸術の力」は「生きる力」」(Sewing Gallery)

二つのことを、いっしょに考えたいのです。ひとつ、頭(思考)は信頼出来ない、という事実。偶然出会った美しいものに惹かれて、これまでの生活スタイルをごっそり変えたいことがあります。美への感動は、これまで考えおぼなかつた重要なものに気づく機会となります。心の奥に眠っていた大きく深い叡智の覚醒をもたらすことさえあるのです。芸術をつくるひと、鑑賞するひと、評価を下すひと、みんな芸術の力に生かされているのです。

■ 2017 年度前期 (2017.6.1-12.16)

2017 年 10 月 1 日 K の生活塾 第 34 回 「部分に秘められた真理」 (嵯峨美術大学)

全体は部分の集合体という素直な論理に従えば、部分の役割が見えると全体を立て直せるはず。実はそうならないのは、部分の中に全体を見ないからだ。

10 月 7 日 講演会 「苦勞の節約」 (ホホホ座 浄土寺店 / 京都市左京区)

苦勞がひとを強くするのは本当でしょうか。

苦勞がシミを増やし、寛大さを失ったイヤな人間をつくる例を私は身近にたくさん知っています。楽に生きる決意が何よりも人生に至福をもたらすのだとおもいます。つまり、苦勞を劇的に減らすには、意識の改善がキモなのです。

10 月 27 日 講演会 「日常を深く生きる— 「知」 をかんがえる。」

(iTohen Books Gallery Coffee)

あれかこれかの選択を、どんなに頻繁に、われわれは実行していることでしょうか。

選択をせまられる度に、自分の中で、知の働きのなんらかの運動として浮上してきます。

記憶にある材料を頼りに、比較し、分析し、判断する。しかし、この知の仕事が、どれほど信頼に値するものなのか、そこを真剣に、慎重に検討してみたことがあるでしょうか。

11 月 23 日 Video Viewing & Discussion on Krishnamurti's Teachings

「生と死について」 (嵯峨美術大学)

12 月 2 日 Tea Party 「K's Point 発足 19 周年記念」 (オフィシナ デル カフェ / 大阪市中区・淀屋橋)

K は、もちろんクリシュナムルティの K ですが、原子番号 19 の元素カリウムの記号でもあります。

19 は、「重苦」とみなされ、世間では好まれない数字ですが、わが K's Point では、そこを足がかりに進化を目論んでいます。現象界の否定的想念は「改善」と「気づき」のベストチャンスを告げるものだからです。

19 には、秘められた発展的構造 ($19=1^2+2\times 3^2$) があります。この数学的気配は、靈的実相の写像であるとおもえます。

12 月 16 日 講演会 「光への探求 with K's Point #2 関係性の世界」 (EDANE)

家族、親子、夫婦、恋人、友人、他人と、関係性は多様だが、そこには見えない実体が存在することに人はなかなか気づかない。「人の本質は光」という視点から、人と人が関わる場においてどのような交流反応が生じているのかを考えてみたい。

3. 2018 年度活動計画

事業別年間計画

【イベント事業】

年度内に以下の行事を予定

- ・ K の生活塾 [会員限定] : 4 回
- ・ 講演会・トークイベント (K's Point 以外の主催) : 11 回
- ・ 探求の会 [会員限定] : 1 回
- ・ K 語・観察会 : 1 回
- ・ その他イベント (Tea Party など) : 1 回

※イベントの回数・内容等は、は予告なく変更される場合がある。

■ K の生活塾日程

会員からのテーマ募集期間中のため、現時点では内容は未定です。(2018.5.15 締切)

2018 年 7 月 15 日 (日)

2018 年 10 月 8 日 (月・祝)

2019 年 1 月 14 日 (月・祝)

2019 年 5 月 18 日 (土)

【出版事業】

文庫本の出版 : 1 冊

【その他】

PDF 版 ニュースレターの発行

本会ウェブサイト上で公開している、Digital News Letter 「insight」を、年度内 2 回を目処に発行。

2. 収支報告

2.1

2016年度 <第6期> 収支報告 (2016.6.1-2017.5.31)

■ 収入の部

勘定科目	実績	(参考) 昨年度実績
イベント事業収入 徴収したイベント参加費・講演料・「Kの生活塾まとめ払い」など	121,800	119,600
会費収入 年会費	128,600	112,200
出版事業収入 出版物の売上げ	163,398	136,478
相談事業収入 「対話プログラム」の収益	0	0
寄付金収入	400	0
雑収入	0	0
[合計]	414,198	369,278

■ 支出の部

勘定科目	実績	(参考) 昨年度実績
イベント事業費 会場使用料・交通費・備品使用料など ※飲食代は含まず	198,333	119,604
出版事業費 出版物発行にかかる費用	156,353	602,864
相談事業費 「対話プログラム」にかかる費用	0	0
管理運営費 書籍の発送料・ウェブサイトの維持管理費（通信費）	3,745	3,395
雑費	5,000	5,000
[合計]	363,431	730,863

注：スタッフへの給与、事務経費は含まない。

NPO K's Point
www.kspoint.com

617-0006 京都府向日市上植野町北小路 42-6
Email kspoint1998@yahoo.co.jp